

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語 (科目) 国語 I	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	3	中学 第3学年	『国語3』(光村図書) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙2500』(いっずな書店) 『SCHOOL RENSEI 現代文 理解片』(育伸社)
学習の到達目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。《知識・技能》・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。《思考力・判断力・表現力》・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。《主体性・多様性・共同性》		
評価の観点	文章を理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすことができる。		
	さまざまな作品に触れる中で、登場人物の言動から心情を整理して作品の主題を捉え、その上で社会全体や人間一般についての理解を深めることができる。		
	それぞれの文章の構成や論理の展開のしかたを把握し、筆者の主張を読み取り、筆者の物事の見方・主張を捉えることができる。また、作者の主張を理解することにより新たな視点を獲得し、自分の考えの幅を広げることができる。		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%
C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
D：未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①小説「握手」井上ひさし ②論説「作られた『物語』を越えて」 山極寿一 ③思考のレッスン 具体化・抽象化	①の単元について ①登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目し、登場人物の生き方や価値観を読み取る。 ②時間・場所（空間）など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句を確認し、物語の展開のしかたの効果について考える。 ②のたんげんについて③ 精読する中で、具体と抽象の関係を理解する。 ④一般的な常識と筆者の独自の見解を比較しながら筆者の主張への理解を深める。 ⑤筆者の主張を確認した上で、主張と関連する社会の課題について思考する。 ③の単元について⑥具体と抽象の関係を理解する。	①の単元について A作品を通読する。 B 作品の設定を捉える。 C 登場人物の人物像を読み取る。 ②の単元についてA全文を通読する。 B筆者の問題意識（話題）を捉える。 C筆者の主張と論理の展開を捉える。 ③の単元についてA教材を読んで「問題」に取り組む。B具体と抽象の関係について確認する。
1 学期 期 末 考 査 ま で	①論説「人工知能との未来」羽生善治 ②論説「人間と人工知能と創造性」松原仁 ③読書「エルサルバドルの少女ヘスース」 長倉洋海 ④読書を楽しむ	①②の単元について ①社会生活を支える論理性と課題解決力を身につける。 ②2つの文章を読み比べると同時に、批判的に読む事で社会の在り方について自分の意見を持つ。 ③④の単元について ③本を通して世界の状況に目を向け、生き方や社会の在り方を考える。 ④文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間・社会・自然などについて自分の意見を持つ。 ⑤生涯にわたる読書活動の基盤を作る。	①②の単元について A全文を通読する。 B筆者の問題意識（話題）を捉える。 C筆者の主張と論理の展開を捉える。 ③④の単元についてD全文を通読する。E読書の楽しさに気づき、日常において読書体験を交流したり、読書の幅を広げる。
2 学 期 中 間 考 査 ま で	①小説「故郷」魯迅 ②漢字2 漢字の造語力 ③漢字3 漢字のまとめ	①の単元について ①再会と別れの物語を通して時代や社会との関わりや人間の姿について考える。 ②情景や人物を描写する語句や表現に着目し、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。 ②③の単元について ③新しい日本語が考え出された経緯を知る。 ④について	①の単元について A全文を通読する。 B 登場人物の置かれた状況とその人物像を考えさせる。 C 登場人物の心情の変化と行動を確認させる。 D諸説を批評する。 ②③の単元について E漢字の部首、音訓、成り立ちや構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組ませる。
2 学 期 期 末 考 査 ま で	①俳句・解説「俳句の可能性」宇田喜代子 ②「俳句を味わう」 ③論説「誰かの代わりに」 鷲田清一 ④言葉1 和語・漢語・外来語 ⑤慣用句・ことわざ・故事成語 ⑥漢字小テスト	①②の単元について ①俳句の特徴について学ぶ。 ②それぞれ1句の俳句についてグループで調べ、発表を行う。 ③俳句の学習を参考にして、俳句を作る。 ③の単元について ④抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読ませる。 ⑤筆者による用語の言い換えや概念の説明のしかたに着目させる。 ⑥社会や人間に対する筆者の考えを理解した上で、自分の考えをまとめる。 ④の単元について ⑦和語・漢語・外来語・混種語についてその性質、使い方を理解させる。 ⑤の単元について⑧慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解させることによって語彙量を増やす。	①②の単元について A「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認する。 B各クラス3～5名のグループを作り、1句の俳句を調べ、発表する。各グループが自分のグループ以外の発表を評価する。 C俳句を作り、外部コンテストなどに応募する。 ③の単元について D筆者の考えを確認させる。 E筆者の考え方を整理させる。 F筆者の意見に対して自分の意見をまとめさせる。 ④⑤の単元について G様々な語彙の意味をタブレット・電子辞書を使って調べる。

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①随筆『温かいスープ』 今道友信 ②詩『初恋』 島崎藤村 ③詩『私を束ねないで』 新川和江	①の単元について ① 筆者の考える「国際性」を捉え、国際社会における生き方について自分の考えを持つ。 ② 当時の世界情勢や日本の置かれていた状況について想像する。②③の単元について ① 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ② 気になった言葉や表現上の特徴などを確認させる。	①の単元について A作品の時代設定や文体に注意して全文を通読する。 B 登場人物の言動が他の登場人物にどのような思いをもたらしたのかを確認する。 ②③の単元について A詩を音読して、詩の韻律を体感する。 B詩の中に使われている言葉の意味を確認する。 C表現の特徴を確認する（表現技法）。 D詩の主題を確認する。
---	---	---	---

【成績評価の概要について】
(1) 学期における評価の対象 ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 漢字テストや提出物、授業への取り組み姿勢などの平常点：60点（関心・意欲・態度などの評価）と「国語Ⅱ」の平常点40点との合算で評価する。 (2) 学期における評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末における評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語Ⅱ	2	中学 第3学年	『国語3』(光村図書) 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』(桐原書店) 『古典文法基礎ドリル 三訂版』(河合出版) 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』(尚文出版)
学習の到達目標	① 基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力を身につけること(主体性を基本とした確かな読解力)。 ② ①に向けて、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけること(知識の習得と、その運用能力)。 ③ 古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを自ら探究し、想像する力を高めること(探究力と想像力)。 ④ 古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自分の考えを表現したり、他者の考えに共感したりする力を身につけること(表現力と共感力)。		
評価の観点	《知識・技能》基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。		
	《思考力・判断力・表現力》古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを想像する力を高め、古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけている。		
	《主体性・多様性・共同性》基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………… 80%
- C: 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D: 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	① 助動詞〔き/けり/つ/ぬ〕の習得（『解析』66-69頁） ②『土佐日記』（『基礎が身につく古文』34頁） ◎5月連休中の課題として、『解析古典文法』70-72頁、『基礎が身につく古文』10-13頁。	①助動詞〔き/けり/つ/ぬ〕についての知識を定着させる。 ②『土佐日記』の一節を読み、内容を理解する。文法事項にも注意しながら、特に上記の助動詞の使われ方を確認していく。 ◎『基礎が身につく古文』では、文法の基礎から再度学び直し「考え方」を身につける。また、『解析古典文法』では〔き/けり/つ/ぬ〕のまとめとして、復習問題を解く。	①助動詞の使われ方を身につけ、文章読解に活かす。 *用言については、復習用プリントを用意し、自習させる。 ②文法事項にも注意しながら、助動詞〔き/けり/つ/ぬ〕の使われ方を確認していく。 使用教材：『解析古典文法』『古典文法基礎ドリル』、『基礎が身につく古文 レベル1』
1 学期 期 末 考 査 ま で	①助動詞〔たり/り/る/らる/ず〕の習得（『解析』62, 63, 85頁） ②『宝物集』（『基礎が身につく古文』44頁） ③漢文の復習として、単文を用いて訓読の練習をする。	①助動詞〔たり/り/る/らる/ず〕についての知識を定着させる。 ②『宝物集』の一節を読み、内容を理解する。文法事項にも注意しながら、特に上記の助動詞の使われ方を確認していく。 ③漢文の読み方、訓点の付け方などを復習し、今後は文章読解を目指す。	①助動詞の使われ方を身につけ、文章読解に活かす。 ②文法事項にも注意しながら、助動詞〔たり/り/る/らる/ず〕の使われ方を確認していく。 ③短い漢文において、訓読・日本語訳などができるようにする。 使用教材：『解析古典文法』『古典文法基礎ドリル』、『基礎が身につく古文 レベル1』、『ビギナーズ古典』、『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』
2 学期 中 間 考 査 ま で	①助動詞〔む/むず/じ〕の習得。（『解析』74, 86頁） ②『古今著聞集』（『基礎が身につく古文』36頁） ③漢文「虎の威を借る狐」（『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』5頁）	①助動詞〔む/むず/じ〕についての知識を定着させる。 ② 本文を読解し、内容説明ができるようにする。 ③訓点に従い、書き下し文が作れる。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できる。	①助動詞の使われ方を身につけ、文章読解に活かす。 ②文法事項にも注意しながら、助動詞〔む/むず/じ〕の使われ方を確認していく。 使用教材：『解析古典文法』『古典文法基礎ドリル』、『基礎が身につく古文 レベル1』、『ビギナーズ古典』、『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』
2 学 期 期 末 考 査 ま で	①助動詞〔す/さす/しむ〕の習得。（『解析』64-65頁） ②『大和物語』（『基礎が身につく古文』20頁） ③漢文/使役構文の習得。短い文章も読む（『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』19-22頁）	①助動詞〔す/さす/しむ〕についての知識を定着させる。 ② 本文を読解し、内容説明ができるようにする。 ③訓点に従い、書き下し文が作れる。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できる。さらに、文章の意味を把握する。	①助動詞の使われ方を身につけ、文章読解に活かす。また、助動詞〔る/らる〕の復習をして、用法の違いを学ぶ。 ②文法事項にも注意しながら、助動詞〔る/らる〕の使われ方を確認していく。頻出単語の習得もおこなう。 使用教材：『解析古典文法』『古典文法基礎ドリル』、『基礎が身につく古文 レベル1』、『ビギナーズ古典』、『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①『大和物語』（『基礎が身につく古文』24頁） ②『平家物語』（『基礎が身につく古文』56頁） ③漢文読解練習として、短い文章を読む（『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』15頁）	①②本文を読解し、内容説明ができるようにする。 ③訓点に従い、書き下し文が作れる。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できる。さらに文意を把握する。	これまで習得した文法事項を活かしながら、文の構造への理解を深める。また、平安時代の価値観にも触れることで、古典世界への興味関心を持たせる。 使用教材：『解析古典文法』『古典文法基礎ドリル』、『基礎が身につく古文 レベル1』、『ビギナーズ古典』、『ステップアップノート10 漢文句形ドリルと演習』
---	---	--	---

【成績評価の概要について】	
(1) 1学期における評価の対象（国語Ⅱ）	① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ Google classroomの練習問題や、授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価）
(2) 学期評定の算出方法	① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である（週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため）。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし（素点：平常点＝8：2）、多面的評価を行う。
(3) 年度末評定の算出方法	① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である（週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため）。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし（素点：平常点＝8：2）、多面的評価を行う。